



かたうを向けて 初めて気づいた 両親がお互いを思ひ合っているということ。

**母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けて人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファインダーを通して、「私」は少しづつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

大反響のテレビドキュメンタリー、 待望の映画化。

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ／関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。
買い物するにも一苦労。結婚以来、
父と母はずっとここで暮らしてきました。



ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子

1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。
在京キー局で数多くのドキュメンタリーパン組を
手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励
賞など受賞多数。



「ぼけますから、よろしくお願ひします。」 映画上映会＆監督講演会

とき 令和6年11月8日(金)
13:30~16:30(開場12:30)
ところ 秩父宮記念市民会館大ホールフォレスター
(秩父市熊木町8-15 ☎0494-24-6000)
定員 350人(先着順)
参加費 無料
申込み 9月17日(火)~10月25日(金)
の期間に電話(☎22-1514)又は
右のQRコードからお申込みください。



※駐車台数に限りがございます。